

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 24 日現在

機関番号：35305

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2012～2015

課題番号：24401034

研究課題名(和文) アナトリアにおける都市化過程の実態解明 メソポタミア都市国家の相対化に向けて

研究課題名(英文) Elucidating the Urbanism in Anatolia: Toward the Relative Understanding of Mesopotamian Urban States.

研究代表者

紺谷 亮一 (KONTANI, RYOICHI)

ノートルダム清心女子大学・文学部・教授

研究者番号：50441473

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,000,000円

研究成果の概要(和文)：トルコ共和国においてキュルテペ遺跡の発掘調査を行い、前期青銅器時代後半の大規模建築址の状況を明らかにした。また、これまで空白地帯であったキュルテペ周辺(カイセリ県域)において124遺跡を踏査した。その中でスズ鉱山と加工遺跡(セニル・スルトウ、テクネカヤ)を発見できたことは、従来の古代青銅生産システムに再考を促すことになった。さらに、アッシリア・コロニー時代の新たな交易都市(イキテペ)を発見した。また詳細な地形データを基にしたキュルテペからの歩行コストモデルを作成し、メソポタミアとの交易ルートについて、新たに地中海ルートを提唱した。

研究成果の概要(英文)：A series of excavations at the ancient urban site of Kultepe, Republic of Turkey, led to the better understanding of a massive public building dated to the late Early Bronze Age. In addition, the archaeological survey in the region neighbouring the site revealed a total of 124 sites across the Kayseri Province that has been hitherto terra incognita archaeologically. One of the most important discoveries among them is that we found tin-mining and working sites (Senir Sirti and Teknekaya), which contributed to reconsidering the ancient bronze production system in the Near East. A new settlement site of Ikitepe dated to the Assyrian colony period was also discovered during our survey. The Cost Distance Analysis around Kultepe on the basis of a rich geomorphological dataset suggested a new communication or trade route linking Anatolian plateau via the Mediterranean coastal regions, and Mesopotamia to the east.

研究分野：西アジア考古学

キーワード：キュルテペ カイセリ県 スズ鉱山 イキテペ セニル・スルトウ テクネカヤ KAYAP

## 1. 研究開始当初の背景

紀元前4～3千年期における西アジア地域では、都市国家・領域国家の起源とその展開を明らかにするために膨大な考古学・文献学的な調査や研究が行われ、古代社会の実態の解明が進められてきた。しかし、それらの多くは都市化の起源地であるメソポタミア地域を中心に行われており、その周縁地域では良好な遺跡の発見に恵まれなかったことや、国内情勢による現地調査の困難さなどから、周縁地域の実態は未だ不明確なままである。とりわけ、アナトリア地域(現トルコ共和国)の状況は、メソポタミア地域の粘土板文書から断片的に知られるのみであった。つまり、周縁地域の調査データによって実態を把握することにより、重層型の社会構造を持つメソポタミア地域とは全く異なる都市化の実態を提示できる可能性があると考えた。そして、西アジアにおける都市国家社会をその内部から相対化するこの視座は、多様な都市形成プロセスへの展望を開くものと考えられる。

アナトリアにおける都市国家遺跡の研究については、中央アナトリア東部(現カイセリ県)に位置するキュルテペ遺跡(古代名:カニシュ)の実態把握が最重要視されてきた。これまで、キュルテペの調査・研究はアンカラ大学のTahsin ÖzgüçやKutlu Emre、Fikri Kulakoğluにより現在まで半世紀にわたって継続され、およそ紀元前2千年紀以降(特にアッシリア・コロンネー時代)の古代社会像、特に交易関係史についての実態が把握されつつある。さらに、2008年より申請者とF. Kulakoğluは、キュルテペについての共同研究を立ち上げ、現在に至るまで発掘調査と遺跡踏査による資料情報の収集を行ってきた。その中で、キュルテペのような都市遺跡の成立・展開過程、周辺村落との関係、古環境についての情報を得ることで、アナトリアにおける都市化の実態に迫ることができると考えた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、3つの具体的課題からなる。都市遺跡の成立過程、都市遺跡と周辺遺跡との関係性、周辺地域の古環境を明らかにすること、である。これらを総合することで、アナトリアにおける都市成立過程を明らかにすることを目的とした。

## 3. 研究の方法

上記3つの課題を明らかにするために、では、アナトリアにおける古代都市研究を牽引してきたキュルテペにおいて、都市成立期とされる紀元前3千年紀堆積層の面的な発掘調査を行うこととした。具体的には、現在までに一部確認されている大規模建築遺構

の規模・構造を明らかにするとともに、土器編年の整備から都市遺跡の年代的位置けを行う。では、キュルテペの位置するカイセリ県において遺跡踏査を行うことである。都市化前後の遺跡動態を広く把握することで、周辺遺跡との関係について議論することが可能となる。では、地形・地質に加え、交易資源等の情報も得ることで、メソポタミア地域との交易ルート及び地域関係の推定を試みる。これら3点の検討を行った。

なお、これらの調査を行うにあたっては、アンカラ大学教授F. Kulakoğlu氏に全面的にご協力いただき、現地での作業はスムーズに行うことができた。

## 4. 研究成果

キュルテペの発掘調査では、これまでの調査で一部検出されていた前期青銅器時代後半の大規模建築址の調査を行った。一辺が70mを越す規模であり、北シリアのテル・ベイダールなどの都市遺跡との類似性を改めて確認できた。また、この大規模建築址の周囲では、大量のブツラが確認されたことから、この時期には大規模な交易活動が行われていたと考えられる。



図1 前期青銅器時代の大規模建築遺構

周辺遺跡の踏査では、これまでほとんど知られていなかったカイセリ県における遺跡動態を明らかにすることができた。

今回、発見・登録することのできた遺跡数は計124遺跡に及んだ。前期青銅器時代期または銅石器時代以前の遺跡については、多くを見つけることができなかった。この時期のカイセリ県の様相については未だ不明確ではあるが、東部ではテルを形成しない遺跡が多くあったことから、居住形態や遺跡形成の問題で可視化されにくいものと考えられた。

前期青銅器時代期になると、多くの遺跡を発見することができ、都市成立期のセトルメント・パターンを明らかにすることができ

た。すなわち、遺跡規模に3～4層の明確な階層構造をもつ北シリアの状況とは異なり、本地域ではキュルテペを最大として他はほぼ並置されるという極端な構造を示していた。これが、システムとしてどのように機能していたのか、については、今後の課題としてあげられる。

しかし、こうしたセトルメント・パターンは、中期青銅器時代（アッシリア・コロニー時代）になると変化する。中核的な遺跡が出現し、その周囲に小さな遺跡が展開する構造となり、それまで多かった遺跡数も減少するようになる。この時期にはすでに都市化しているため、こうしたセトルメント・パターンの変化には、都市部への集住が背景として考えられた。

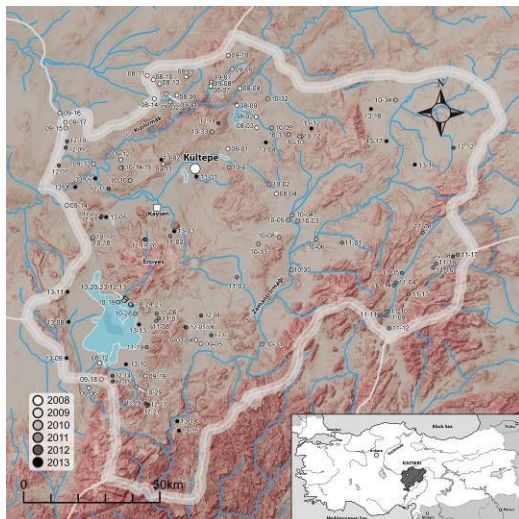


図2 カイセリ県内の踏査遺跡

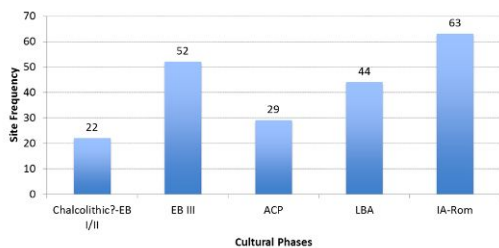


図3 銅石器時代以降の遺跡数の推移

では、遺跡踏査と同時並行して資源分布調査を行い、青銅器時代のスズ鉱山とその加工遺跡と考えられるテクネカヤ・ホユック、セニル・スルトゥを発見した。これは、アナトリアにおける従来の古代青銅生産モデルに再考を促す成果となった。すなわち、中期青銅器時代のスズの輸入が、これまで漠然と前期青銅器時代まで遡ると考えられてきたが、在地生産の可能性を提起した。

また、詳細な地形データを収集し、キュルテペからの歩行コストモデルを作成した。その結果、メソポタミア地域との交易ルートとしては東周りよりも南周りの方が、コストが

かからないことが判明した。また、これまで集積してきた遺跡分布データを合わせると、遺跡も南側に偏るような傾向もあるため、交易ルートとして新たに地中海ルートを提唱した。

さらに、キュルテペ周辺における古環境調査としてボーリング調査を行った。また、カイセリ県南部のイキテペ周辺においても同様の調査を行った。遺跡周辺の水環境や土地発達プロセスについて明らかにし、居住環境復元の見通しを得ることができた。



図4 セニル・スルトゥのスズ

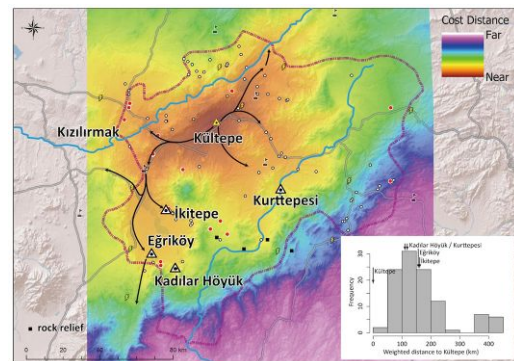


図5 キュルテペからの歩行コストモデル

以上、都市成立期の遺構・遺物内容、周辺遺跡との関係、周辺資源・古環境から、アナトリアにおける都市成立期の様相を多方面から明らかにすることができた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 8 件)

紺谷亮一、小高敬寛、須藤寛史、早川祐式、山口雄治、フィクリ・クラックオウル、クトゥル・エムレ、中央アナトリアにおける青銅器時代の都市化—トルコ共和国カイセリ県遺跡調査(KAYAP)第5次調査(2012年)—、第20回西アジア発掘調査報告会報告集(査読無)、2013、66-71頁



紺谷亮二、小高敬寛、須藤寛史、早川祐式、山口雄治、F.クラックオウル、K.エムレ、S.エゼル、G.オズトゥルク、トルコ共和国カイセリ県遺跡調査プロジェクト(KAYAP)第5次調査(2012年)概報、岡山市立オリエント美術館研究紀要(査読有)、2013、27巻、15-42頁

Kulakoğlu, F., Emre, K., Kontani, R., Ezer, S., Öztürk, G. Kültepe-Kaniş, Turkey: preliminary Report on the 2012 Excavations, Bulletin of Okayama Orient Museum(査読有), 2013, vol. 27, 43-50

紺谷亮二、小高敬寛、須藤寛史、早川祐式、山口雄治、フィクリ・クラックオウル、クトゥル・エムレ、アッシリア・コロニー時代の交易ルート—トルコ共和国カイセリ県遺跡調査(KAYAP)第6次調査(2013年)—、第21回西アジア発掘調査報告会報告集(査読無)、2014、96-101頁

紺谷亮二、小高敬寛、須藤寛史、早川祐式、F.クラックオウル、K.エムレ、G.オズトゥルク、トルコ共和国カイセリ県遺跡調査プロジェクト(KAYAP)第6次調査(2013年)概報、岡山市立オリエント美術館研究紀要(査読有)、2014、28巻、25-34頁

Yener, A., Kulakoğlu, F., Yazgan, E., Kontani, R., Hayakawa, Y., S., et al., New Tin Mines and Production Sites near Kültepe, Ancient Kanesh in Turkey: a Third Millennium BC Highland Production Model, Antiquity(査読有), 2015, vol.89, 596-612, DOI: 10.15184/aqy.2015.30

紺谷亮二、上杉彰紀、フィクリ・クラックオウル、ギュゼル・オズテュルク、早川祐式、中央アナトリアにおける都市の起源を探る—キュルテペ遺跡北トレンチ発掘調査2015年—、第23回西アジア発掘調査報告会報告集(査読無)、2016、57-62頁

山口雄治、トルコ共和国カイセリ県セニル・スルトゥ、テクネカヤ・ホユック遺跡、考古学研究(査読有)62巻3号、2015、121-123頁

[学会発表](計 15 件)

Kontani, R. Kayseri Arkeolojik Araştırması Projesi 2011, 33. Uluslararası Kazı, Araştırma ve Arkeometri Sempozyumu, 2012年5月22日、チヨルム(トルコ)

紺谷亮二、カイセリ県遺跡調査プロジェクト(KAYAP)について、西アジア考古学会2012年度ワークショップA、2013年3月16日、岡山オリエント美術館(岡山)

山口雄治、前期青銅器時代—中央アナトリアの葬制、西アジア考古学会2012年度ワークショップA、2013年3月16日、岡山オリエント美術館(岡山)

紺谷亮二、中央アナトリアにおける青銅器時代の都市化—トルコ共和国カイセリ県遺跡調査(KAYAP)第5次調査(2012年)—、第20回西アジア発掘調査報告会、2013年3月24日、池袋サンシャインシティ文化会館(東京)

Kontani, R. Kayseri Arkeolojik Araştırması Projesi 2012, 34. Uluslararası Kazı, Araştırma ve Arkeometri Sempozyumu, 2013年5月21日、ムーラ(トルコ)

須藤寛史、山口雄治、早川裕式、小高敬寛、紺谷亮二、中央アナトリア、青銅器時代の地域構造、西アジア考古学会第18回大会、2013年6月2日、東京大学(東京)

小高敬寛、山口雄治、紺谷亮二、トルコ共和国カイセリ県南東部の移牧・遊牧と夏营地跡、西アジア考古学会第18回大会、2013年6月2日、東京大学(東京)

Kontani, R. The Kayseri Region in the Late Third and Early Second Millennium BC, 1<sup>st</sup> Kültepe International Meeting, 2013年9月24日、カイセリ(トルコ)

紺谷亮二、アッシリア・コロニー時代の交易ルート—トルコ共和国カイセリ県遺跡調査(KAYAP)第6次調査(2013年)—、第21回西アジア発掘調査報告会報告会、2014年3月23日、池袋サンシャインシティ文化会館(東京)

Hayakawa, Y., S., Obanawa, H., Naruhashi, R., Yoshida, H., Zaiki, M., Kontani, R., Sudo, H., Odaka, T., Yamaguchi, Y., Kulakoğlu, F., Öztürk, G. Spatial analysis of prehistoric archaeological sites and landforms in Kayseri, central Turkey using multiscale topographic data, Japan Geoscience Union Meeting 2014, 2014年4月28日、パシフィコ横浜(神奈川)

Kontani, R. Settlement Pattern

Change of Early Bronze Age to Assyrian Colony Period in Kayseri Province, Times of Changes at Kültepe/Kanesh and in Central Anatolia in the Light of Current Researches, 20th Annual Meeting of the European Association of Archaeologists, 2014年9月11日、イスタンブール(トルコ)

Kontani, R. Kayseri Arkeolojik Araştırması Projesi 2014, 36. Uluslararası Kazı, Araştırma ve Arkeometri Sempozyumu, 2015年5月26日、エルズルム(トルコ)

Yamaguchi, Y., Sudo, H., Kontani, R., Hayakawa, Y. S. Chalcolithic or Early Bronze Age? : New Perspective in the Kayseri Province, The 2nd International Meeting at Kültepe, 2015年7月29日、カイセリ(トルコ)

Naruhashi, R., Kashima, K. Holocene Paleo-environmental Variability Reconstructed from a Wetland Sediment Record around Kültepe site: from the Hand Drilling Study, The 2nd International Meeting held at Kültepe, Kayseri, 2015年7月29日、カイセリ(トルコ)

紺谷亮一、上杉彰紀、フィクリ・クラックオウル、ギュゼル・オズテュルク、早川祐式、中央アナトリアにおける都市の起源を探る キュルテペ遺跡北トレンチ発掘調査 2015年、第23回西アジア発掘報告会、2016年3月26日、池袋サンシャインシティ文化会館(東京)

〔図書〕(計 1 件)

Kontani, R., Sudo, H., Yamaguchi, Y., Hayakawa, Y. S., Odaka, T., An Archaeological Survey in the Vicinity of Kültepe, Kayseri Province, Turkey, In Atici, L., Kulakoğlu, F., et al. (eds.), Current Research at Kültepe-Kanesh: An Interdisciplinary and Integrative Approach to Trade Networks, Internationalism, and Identity(査読有), Lockwood Press, 2014, 95-106

〔その他〕

ホームページ等

<http://kayap.exblog.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

紺谷 亮一 (KONTANI, Ryoichi)

ノートルダム清心女子大学・文学部現代

社会学科・教授

研究者番号：50441473

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

松本 健 (MATSUMOTO, Ken)

国土館大学・イラク古代文化研究所・教授

研究者番号：00103672

岡田 保良 (OKADA, Yasuyoshi)

国土館大学・イラク古代文化研究所・教授

研究者番号：90115808

小口 裕通 (OGUCHI, Hiromichi)

国土館大学・イラク古代文化研究所・教授

研究者番号：70152444

鹿島 薫 (KASHIMA, Kaoru)

九州大学・理学(系)研究科(研究院)・准教授

研究者番号：90192533

早川 祐式 (HAYAKAWA, Yuichi)

東京大学・空間情報科学研究センター・准教授

研究者番号：70549443

山口 雄治 (YAMAGUCHI, Yuji)

岡山大学・埋蔵文化財調査研究センター・助教

研究者番号：00632796